

氏名	岩井 直子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5645号
学位授与の日付	平成29年12月27日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Childhood cancer survivors: Anxieties felt after treatment and the need for continued support (小児がん経験者の治療後の不安とその支援について)
--------	---

論文審査委員	教授 山田了士	教授 前田嘉信	教授 野田卓男
--------	---------	---------	---------

学位論文内容の要旨

小児がん経験者（以下 CCS）とその家族（以下 CCS 家族）は治療終了後も晩期合併症や再発等の恐れを抱えながら生活しており、長期にわたって様々な負担があることから、CCS 及びその家族の治療後の不安とその支援について明らかにすることを目的に、平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までに中四国地方の小児病棟を有する総合病院で小児がんに対する治療を終了して 5 年以上生存している 15 歳以上 40 歳未満の長期フォローアップ中の CCS 及び CCS 家族、各 57 名を対象とし、質問紙調査を行った。回収率は CCS30 名（53%）、CCS 家族 27 名（47%）で続柄は全て両親であった。CCS の年齢、初診時の年齢、治療後の経過年数の中央値は 23 歳、9.5 歳、11 年であった。晩期合併症を知っていると回答した CCS の割合は CCS 両親に比較して有意に低かった。CCS と CCS 両親のライフステージにおける不安に概ね差は見られず、彼らの主な相談者は家族であったが、気軽に相談できる家族以外の場を求めている。医療機関は医療的支援を行うだけでなく、CCS らの不安に対して一元的に相談できる場所を設けることが必要と思われた。

論文審査結果の要旨

小児がん経験者（CCS）は成人後も様々な不安や身体的不調を抱えて生活しており、医療面でもがん治療小児科から診療科や病院をどう移行していくかといった問題もある。

本研究は 15 歳以上 40 歳未満の CCS と CCS 家族を対象に質問紙調査を行い、地方都市における CCS のフォローアップに関する課題について検討したものである。その結果、CCS と CCS 家族の抱える不安の内容はほぼ同じで、医療資源、復学、就労、結婚などについて困難や不安を覚えていることが示された。また晩期合併症については CCS 家族より CCS に知らない人が多いなどの知見が得られた。以上、本研究は地方都市における CCS の診療とケアの問題点について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める